

小規模事業場の産業保健活動と
産業保健推進センター(現産業保健総合支援センター)
及び地域産業保健センターの支援状況
並びに産業医の活動状況と産業保健に対する
さらなる効果的支援に関する研究

主任研究者	鹿児島産業保健総合支援センター所長	草野 健
共同研究者	鹿児島産業保健総合支援センター産業保健相談員	小田原 努
共同研究者	鹿児島産業保健総合支援センター産業保健相談員	橋口 良紘
共同研究者	鹿児島県厚生連健康管理センター副所長	宮原 広典

平成27年度産業保健調査研究発表会 2015.11.20 於:ソリッドスクエア

調査の目的・対象・方法および内容

目的 : この10年間に行った活動の成果の検証と今後の課題と方向性を明確にする

対象 : 10年前と同じ対象事業場3,545に調査票を配布し、現存する3062事業場中回収できた1436事業場(回収率46.9%)を検討対象とした。

方法 : 調査票を郵送し自記方式にて回答後郵送で回収。

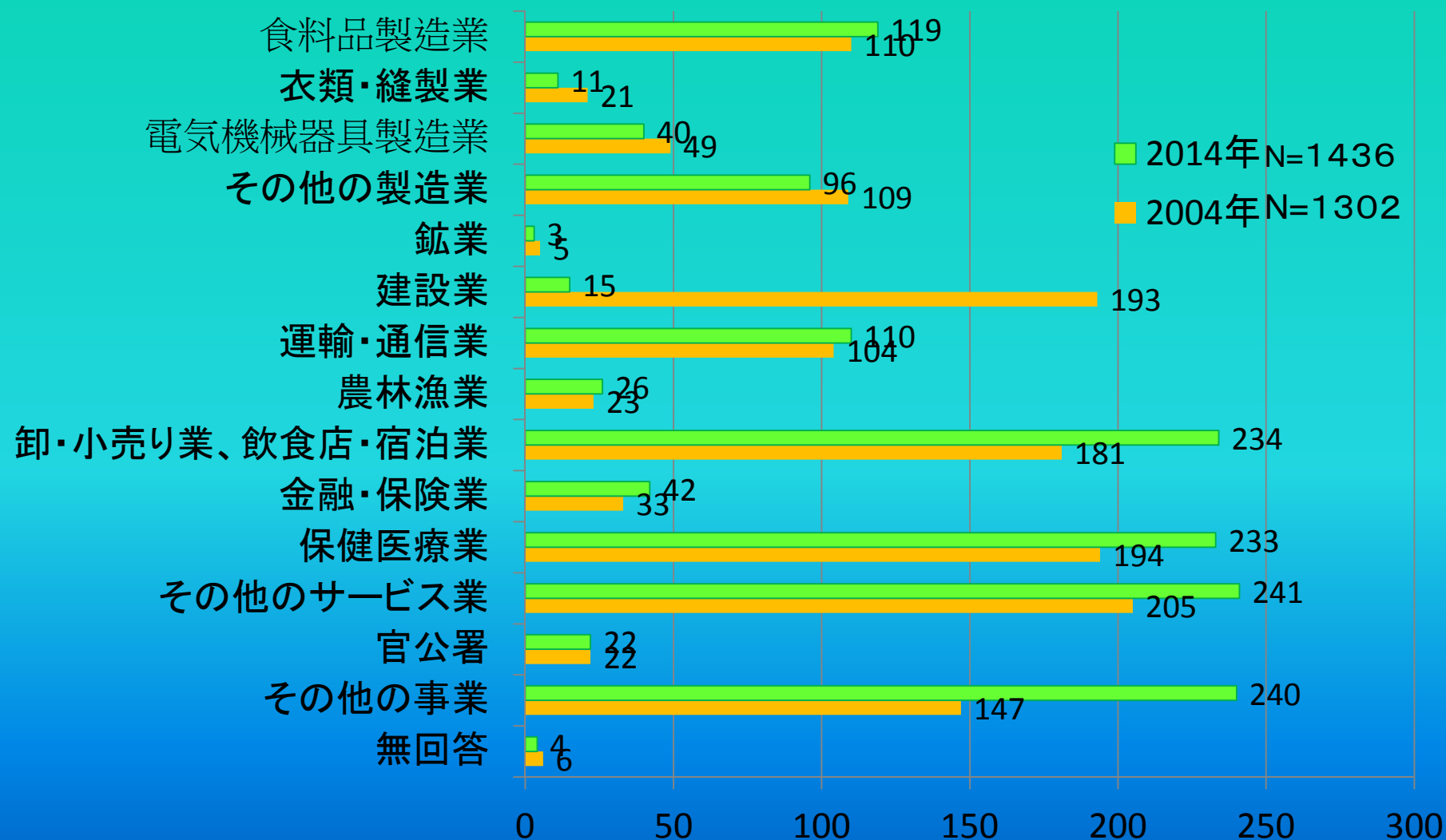
事業場名等の記載は任意とし、集計・分析に当たっては事業場名が特定できぬように配慮し、情報漏洩防止にも十分に留意した。

調査内容 : 調査内容は大きく以下の3点である

1. 事業場の産業保健活動の実態
2. 産業医の活動状況及び事業場と産業医との関係
3. 産業保健総合支援センターの認知度と利用状況

利益相反 : 調査研究は全て労働者健康福祉機構の研究予算の範囲で行い、部外からの援助等は一切無く、開示すべきC.O.Iはない。

業種別回答事業数比較



規模別回答事業場構成比の比較

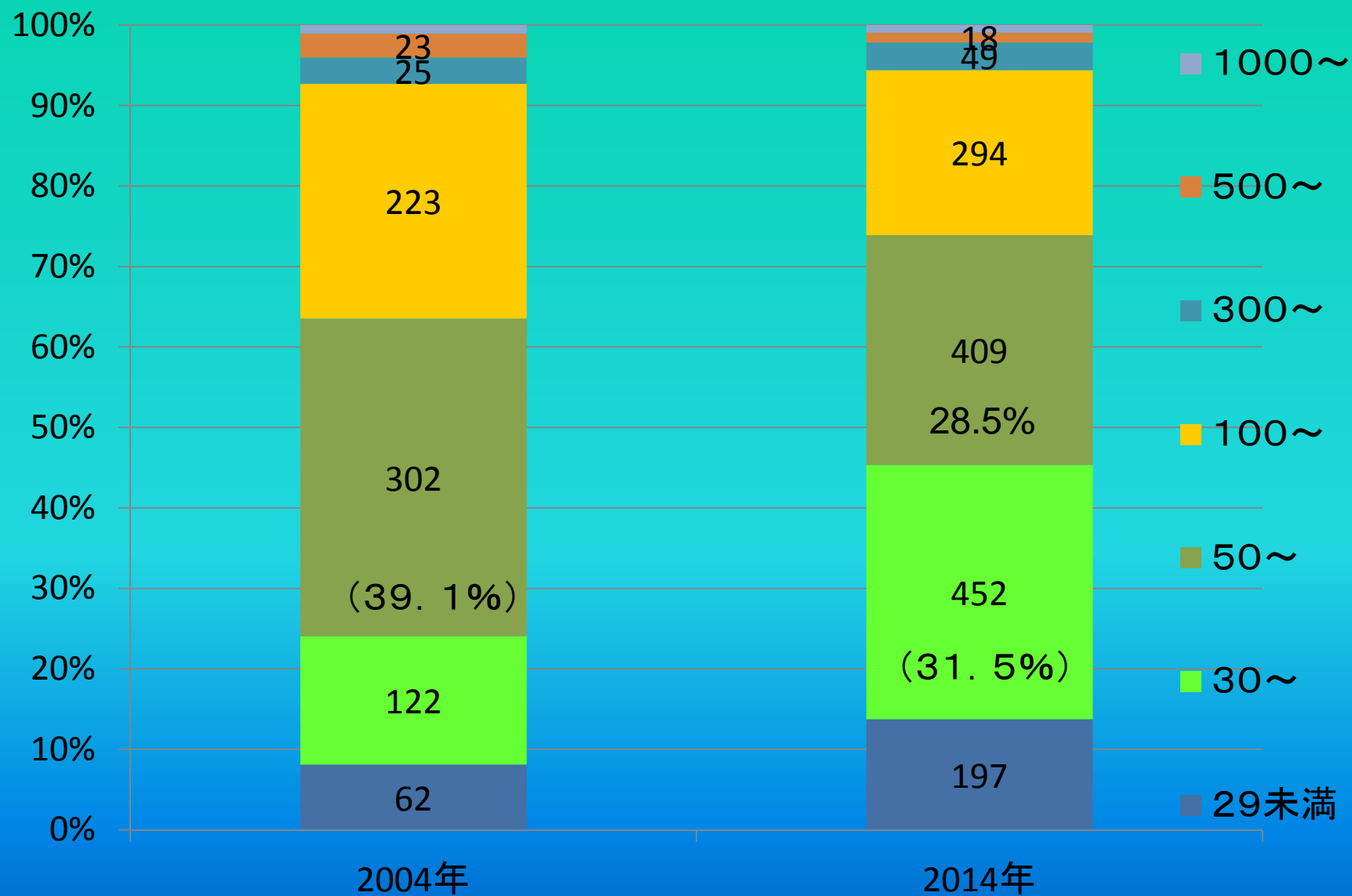
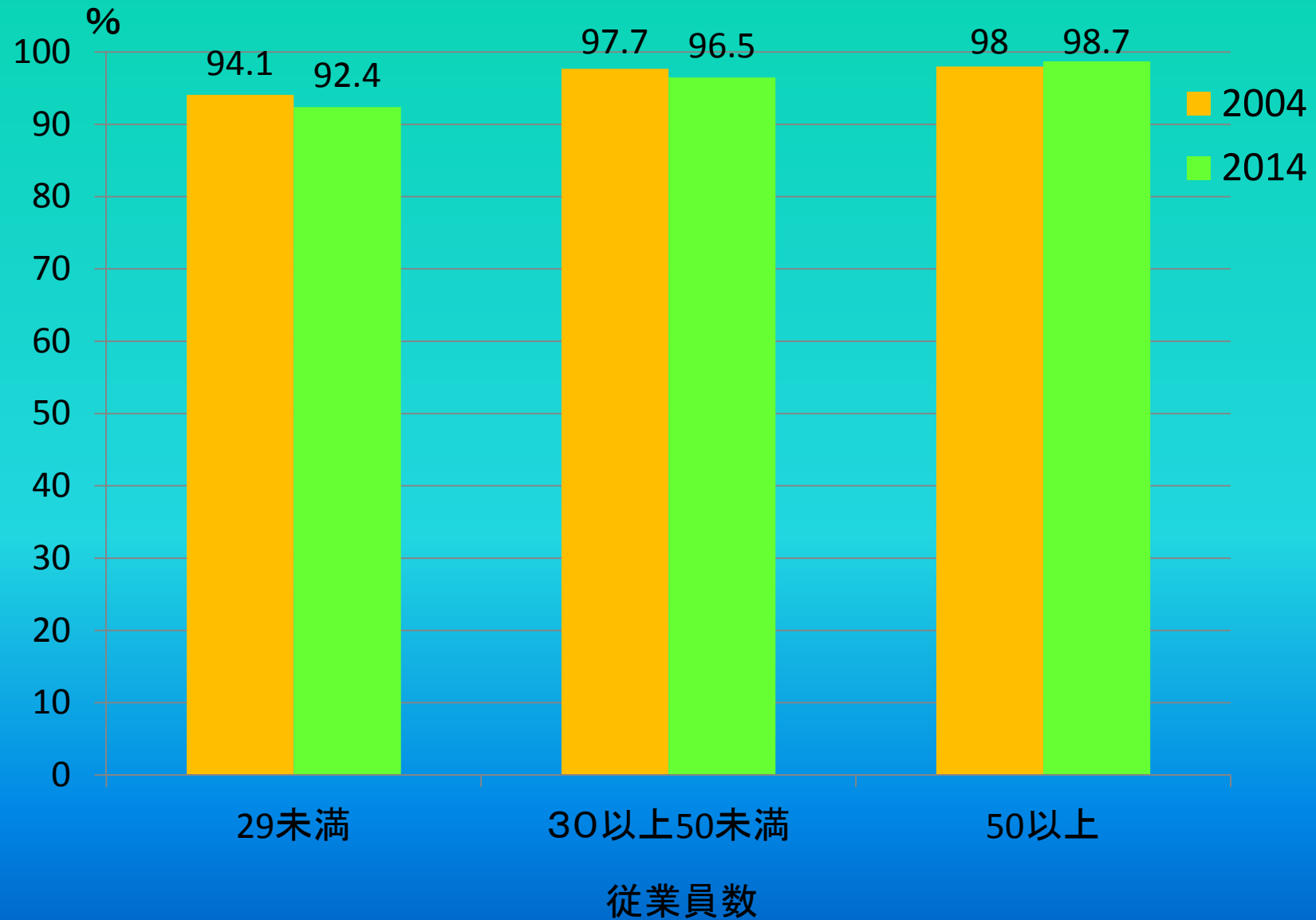
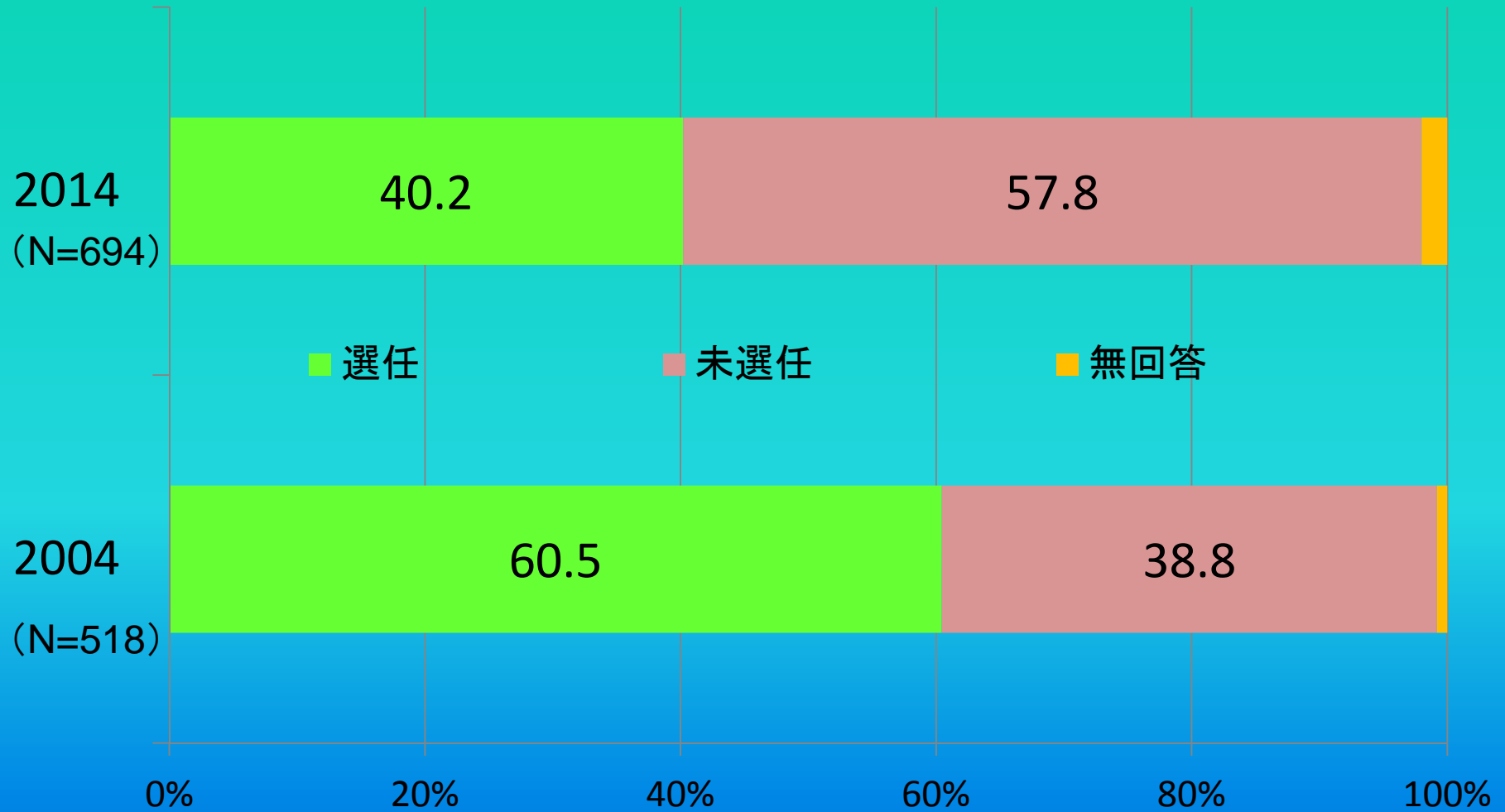


図5

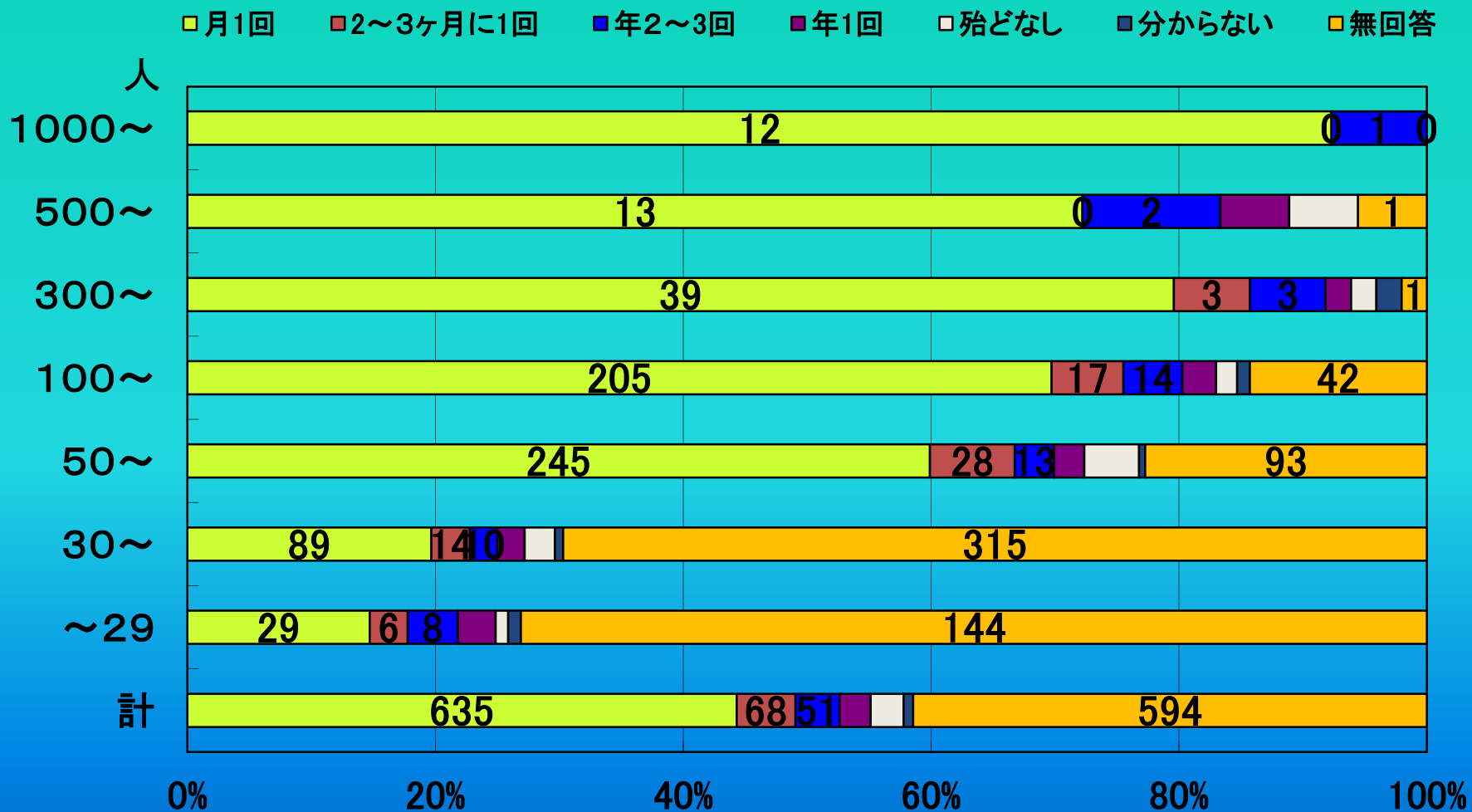
定期健診実施状況比較



衛生管理者選任狀況比較(50人未滿事業場)



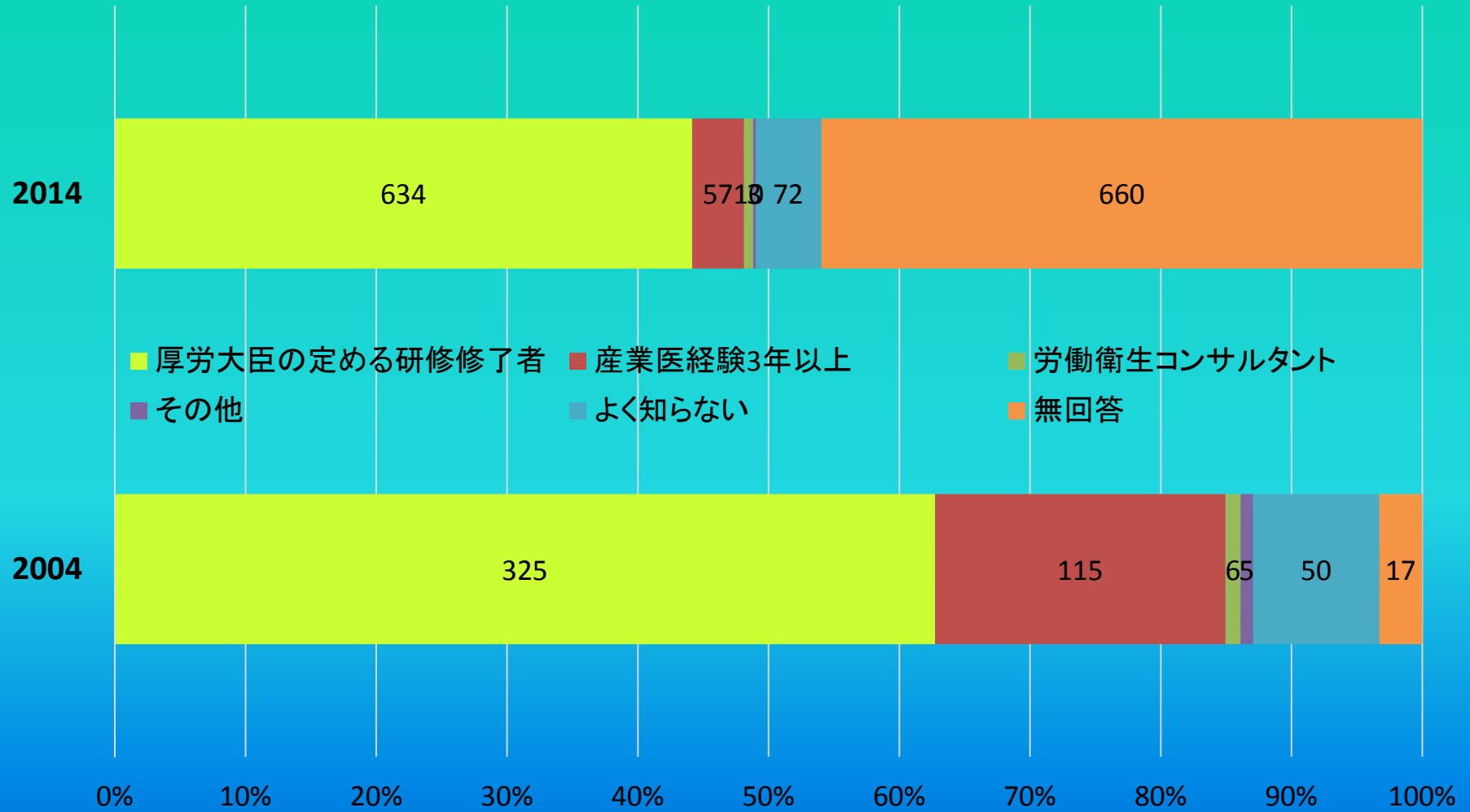
衛生委員会開催状況(規模別)



産業医選任状況比較

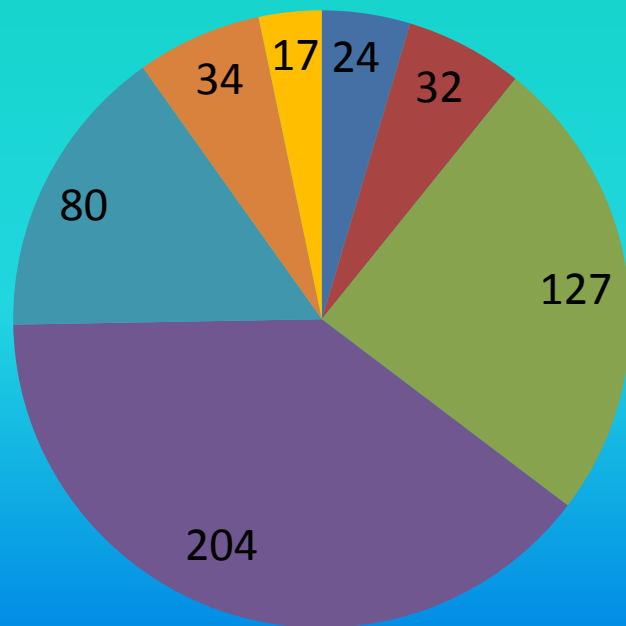
規模	年度	設置	未設置	無回答
50人未満	2004 (%)	33	183	25
		13.7	76.0	10.4
	2014 (%)	87	526	36
		13.8	81.0	5.5
50人以上	2004 (%)	485	92	4
		83.5	15.8	2.9
	2014 (%)	709	72	23
		88.2	8.9	2.9
計	2004 (%)	518	275	29
		67.1	29.1	3.8
	2014 (%)	796	598	42
		55.4 ↓	41.6	2.9

産業医の資格要件

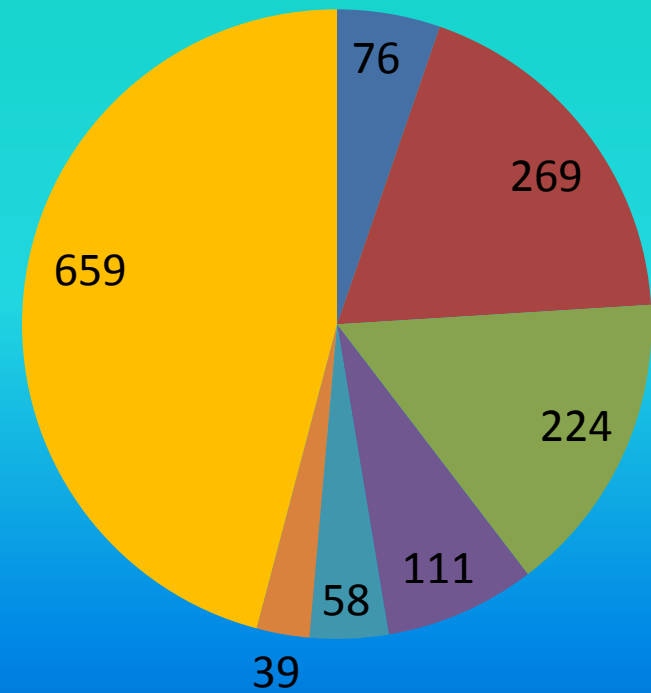


産業医活動日数比較

2004年度

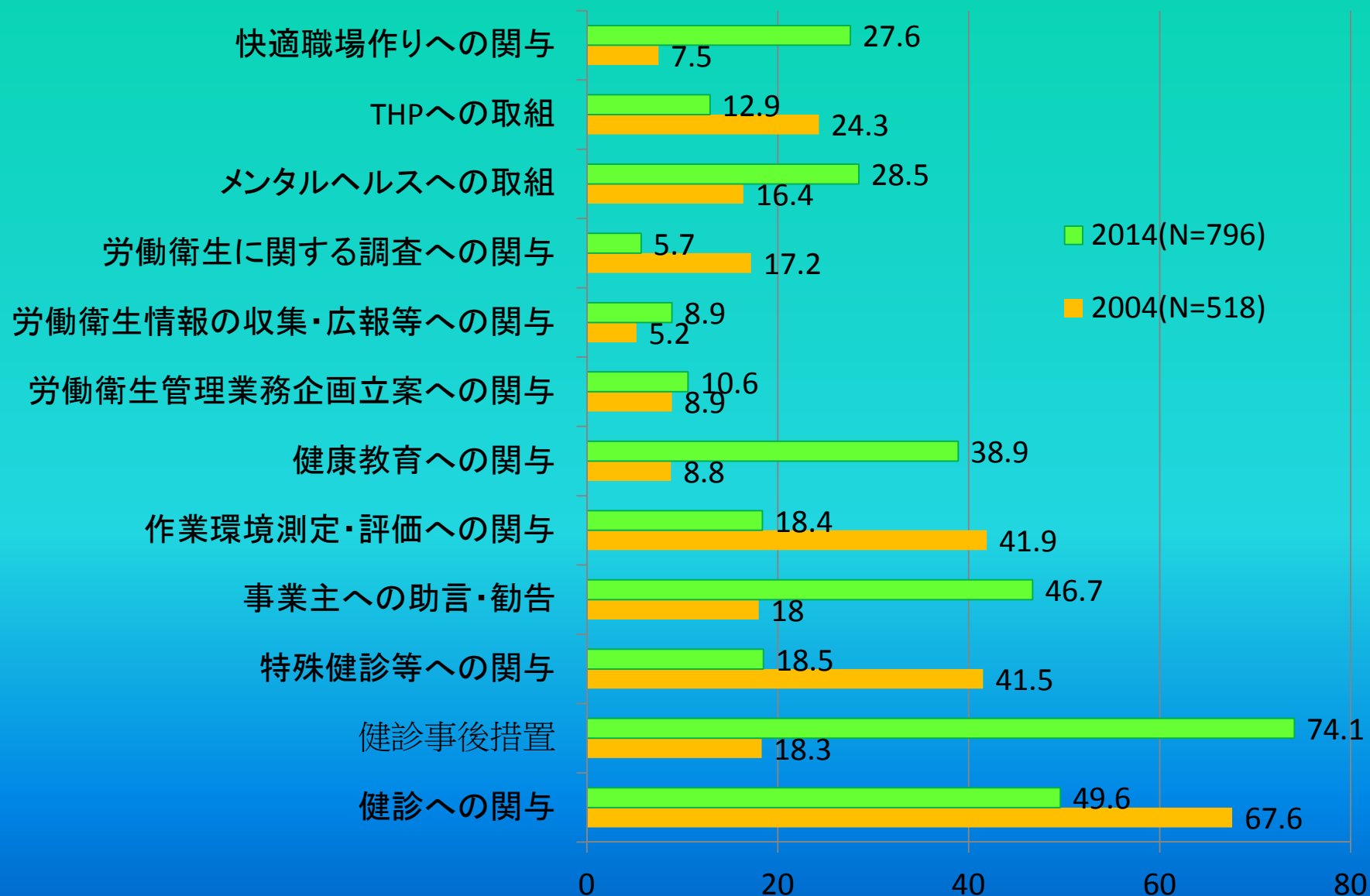


2014年度

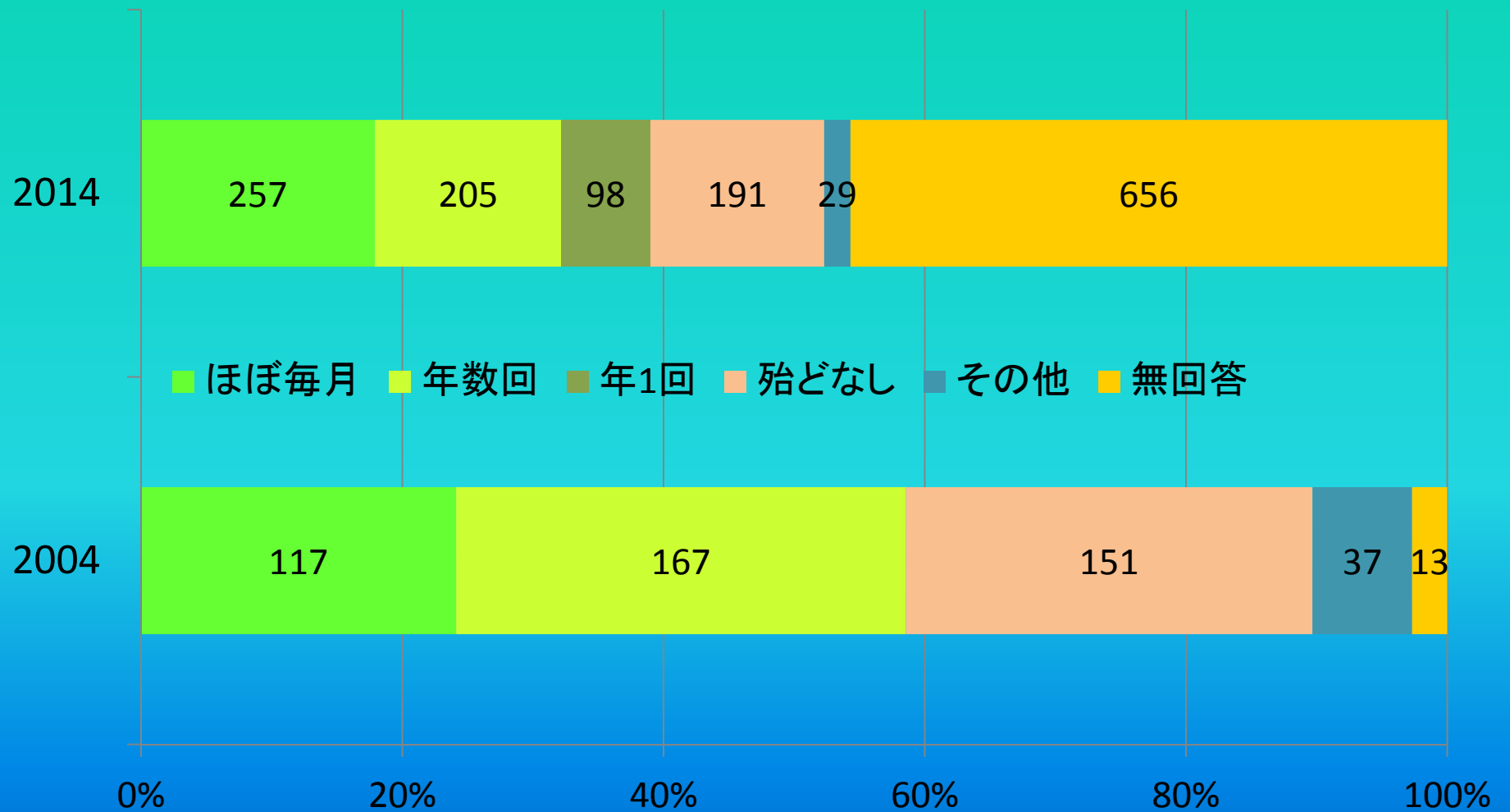


- 月2回以上
- 月1回
- 年数回
- 年1回以上
- 殆どない
- その他
- 無回答

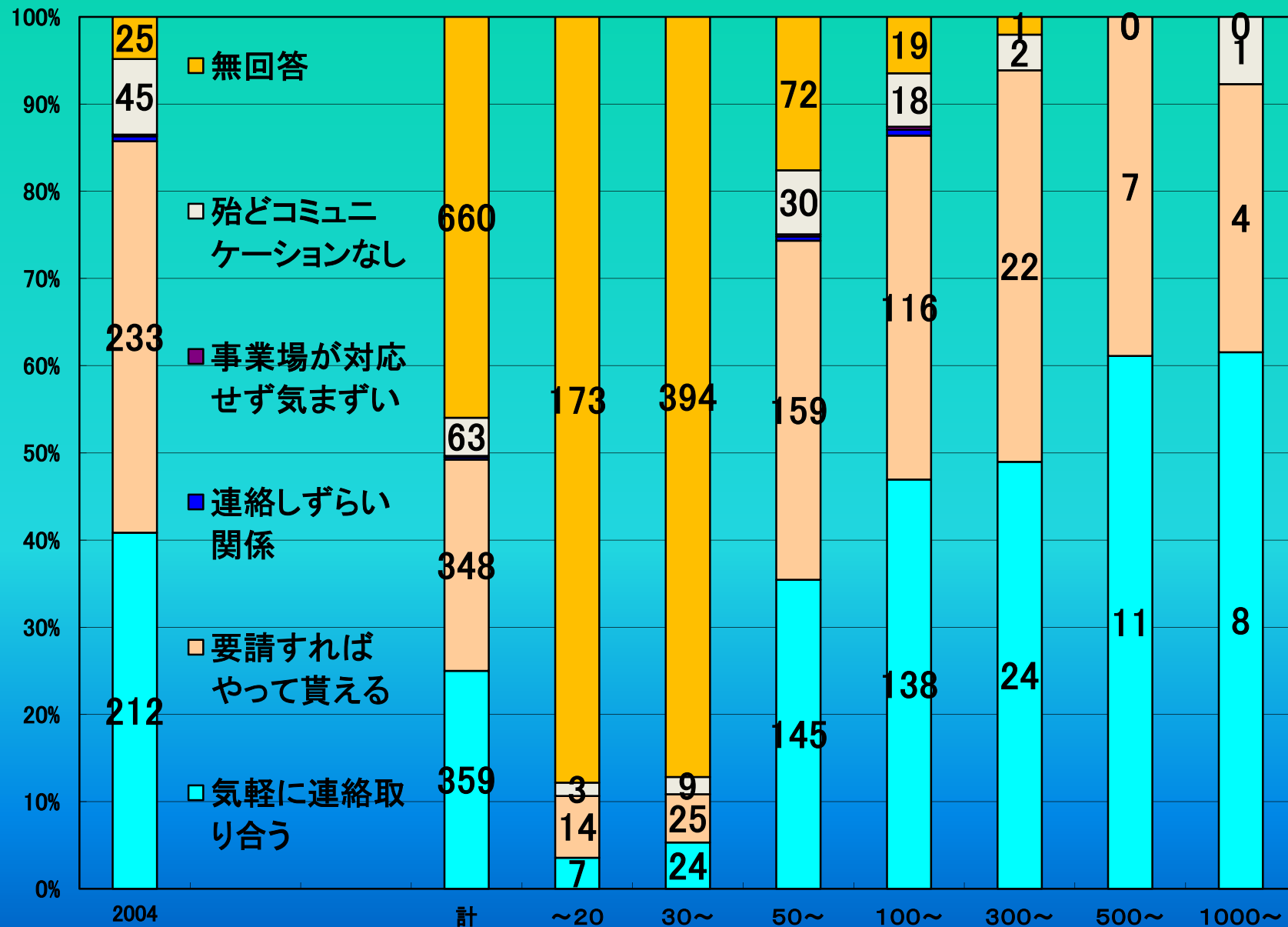
産業医の活動内容



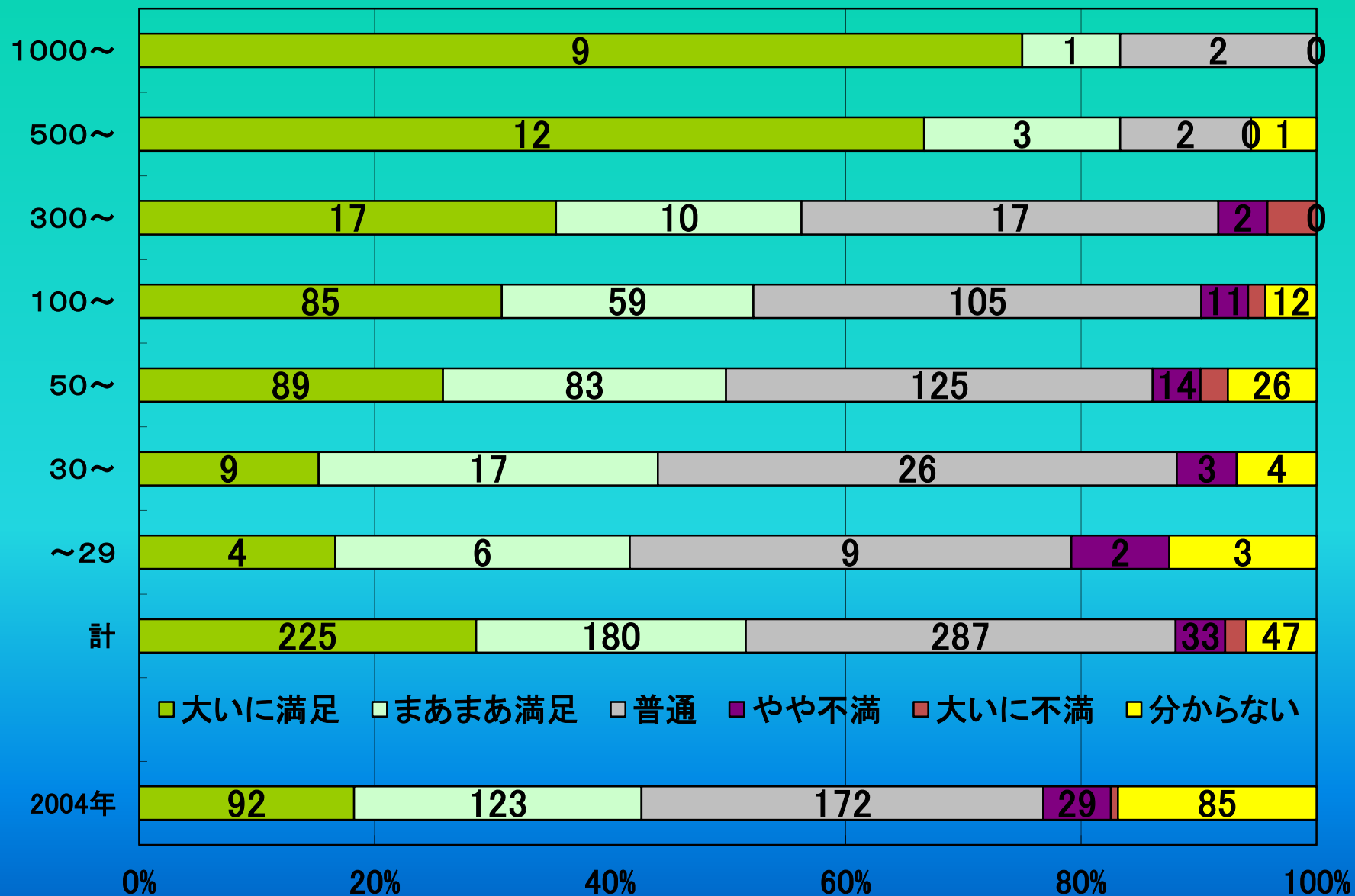
産業医職場巡視状況比較



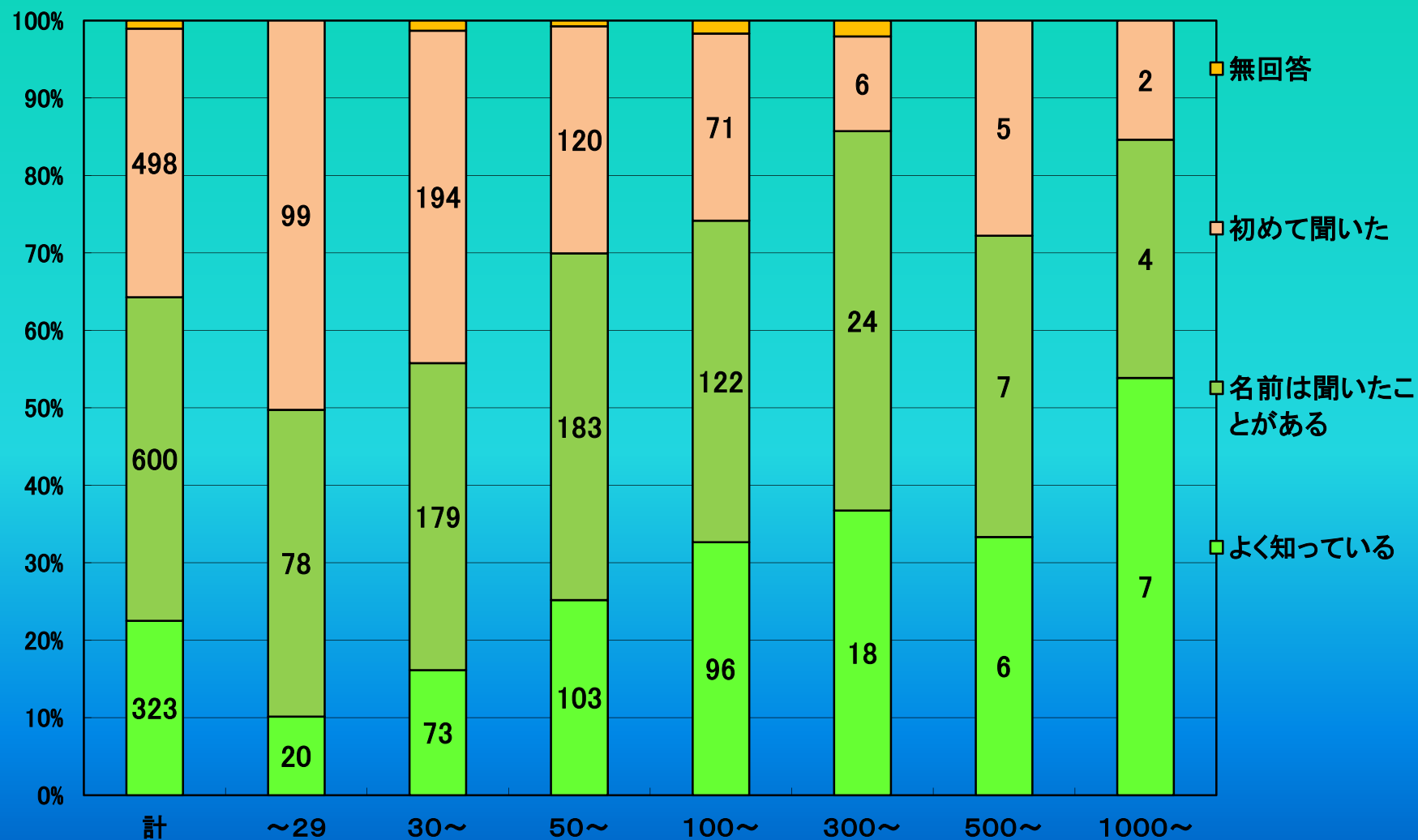
事業場と産業医の関係 (2014 N=1436)



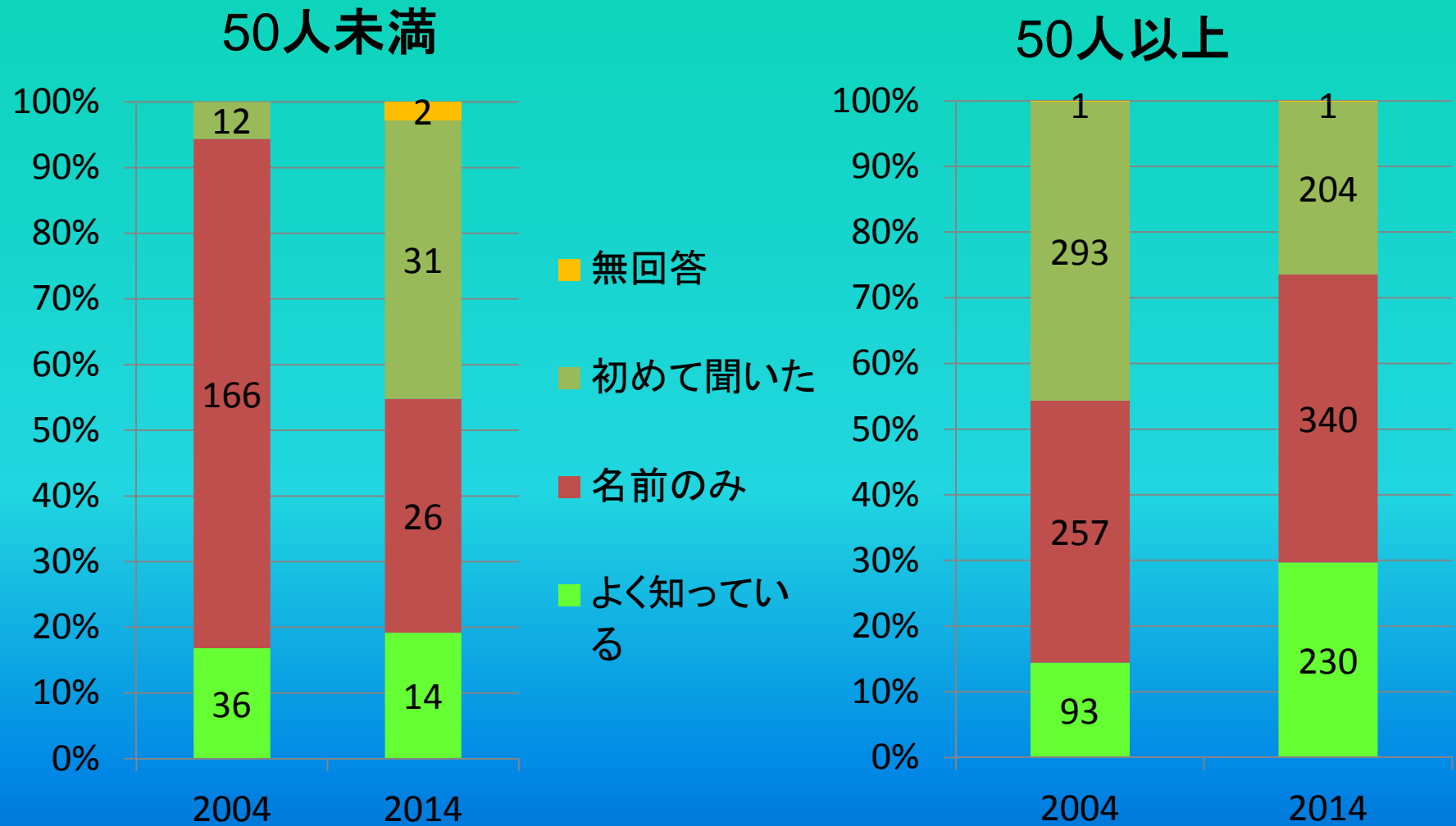
産業医活動への満足度



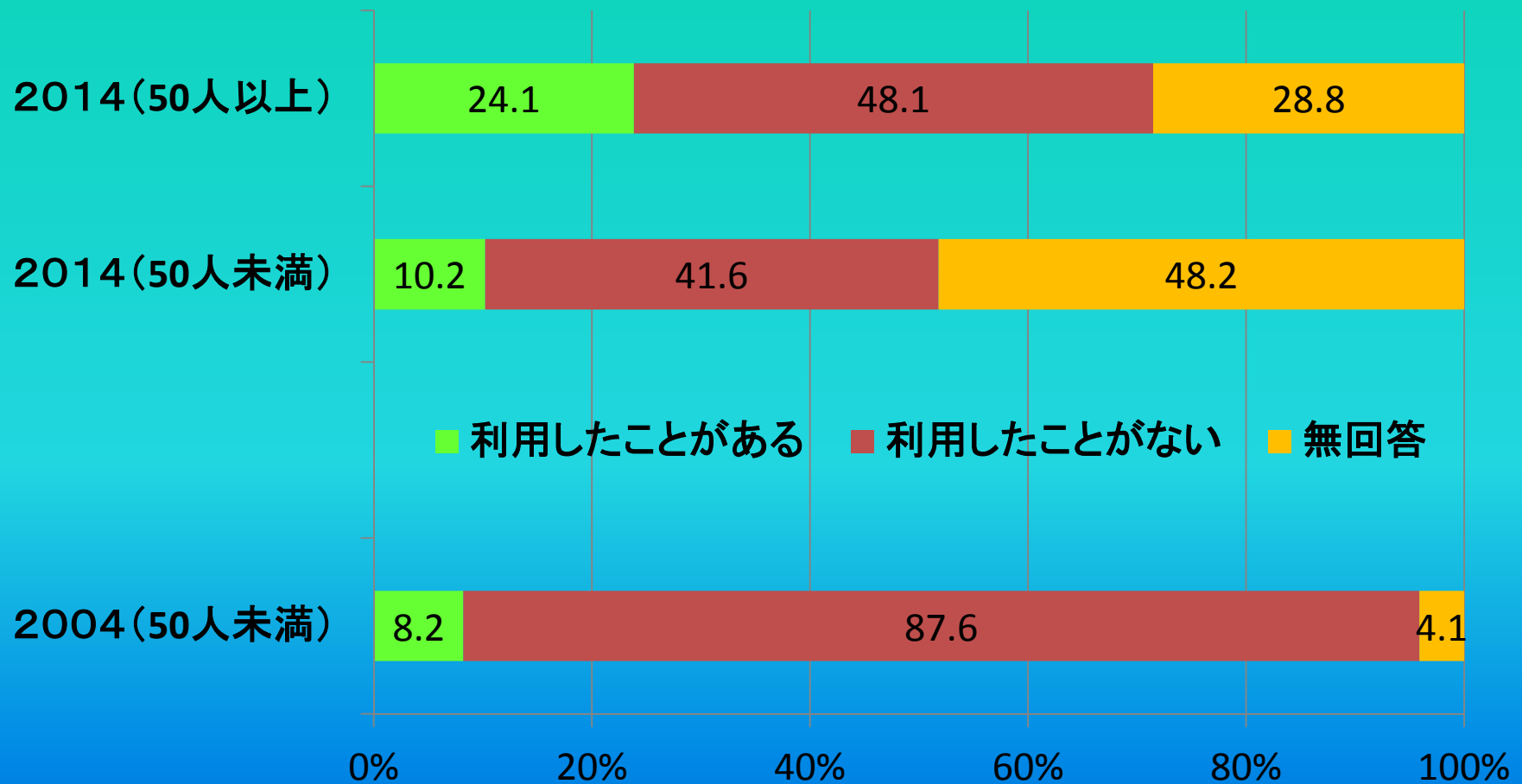
産業保健総合支援センターの認知度（規模別）



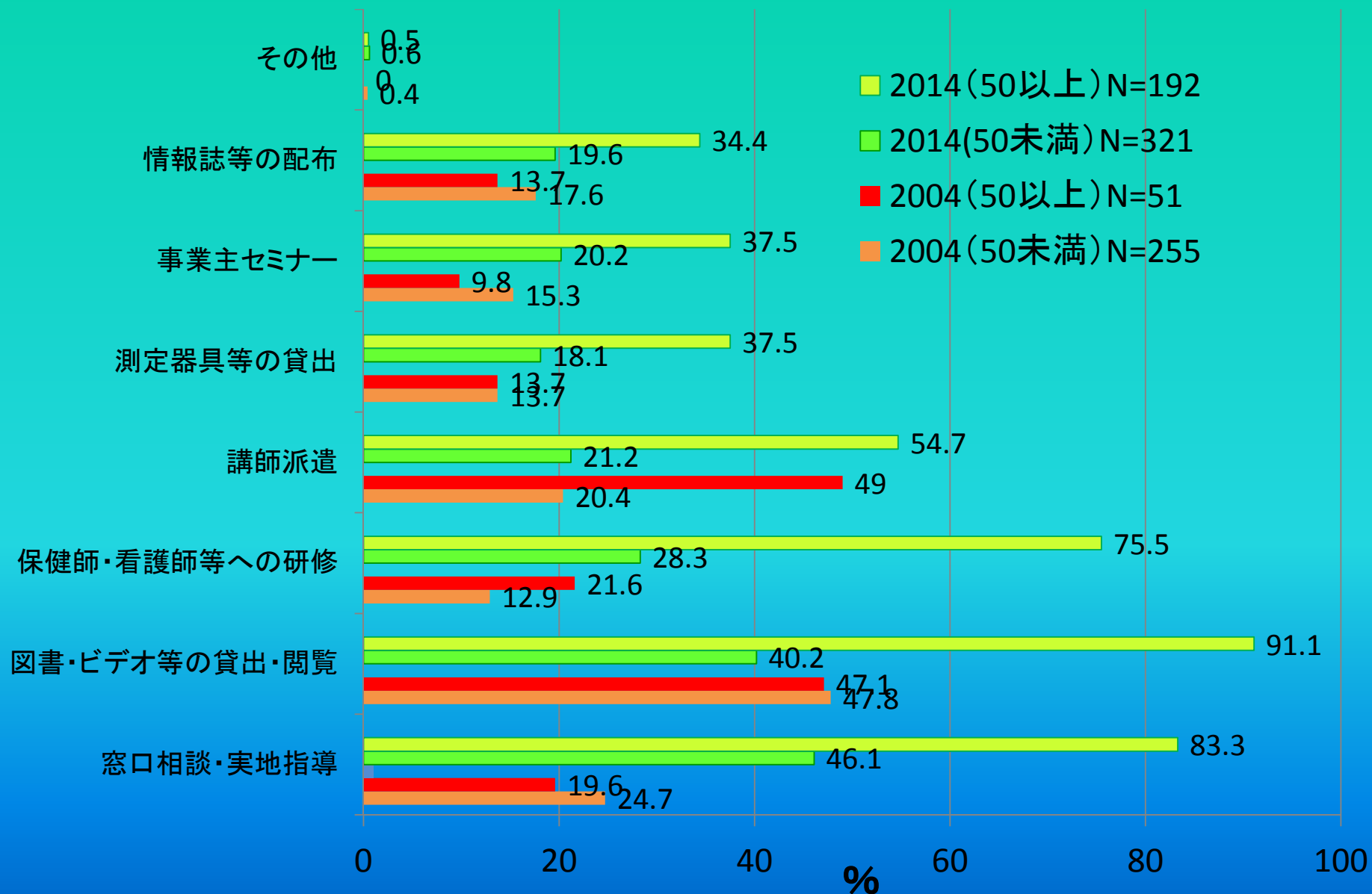
産保センター認知度推移



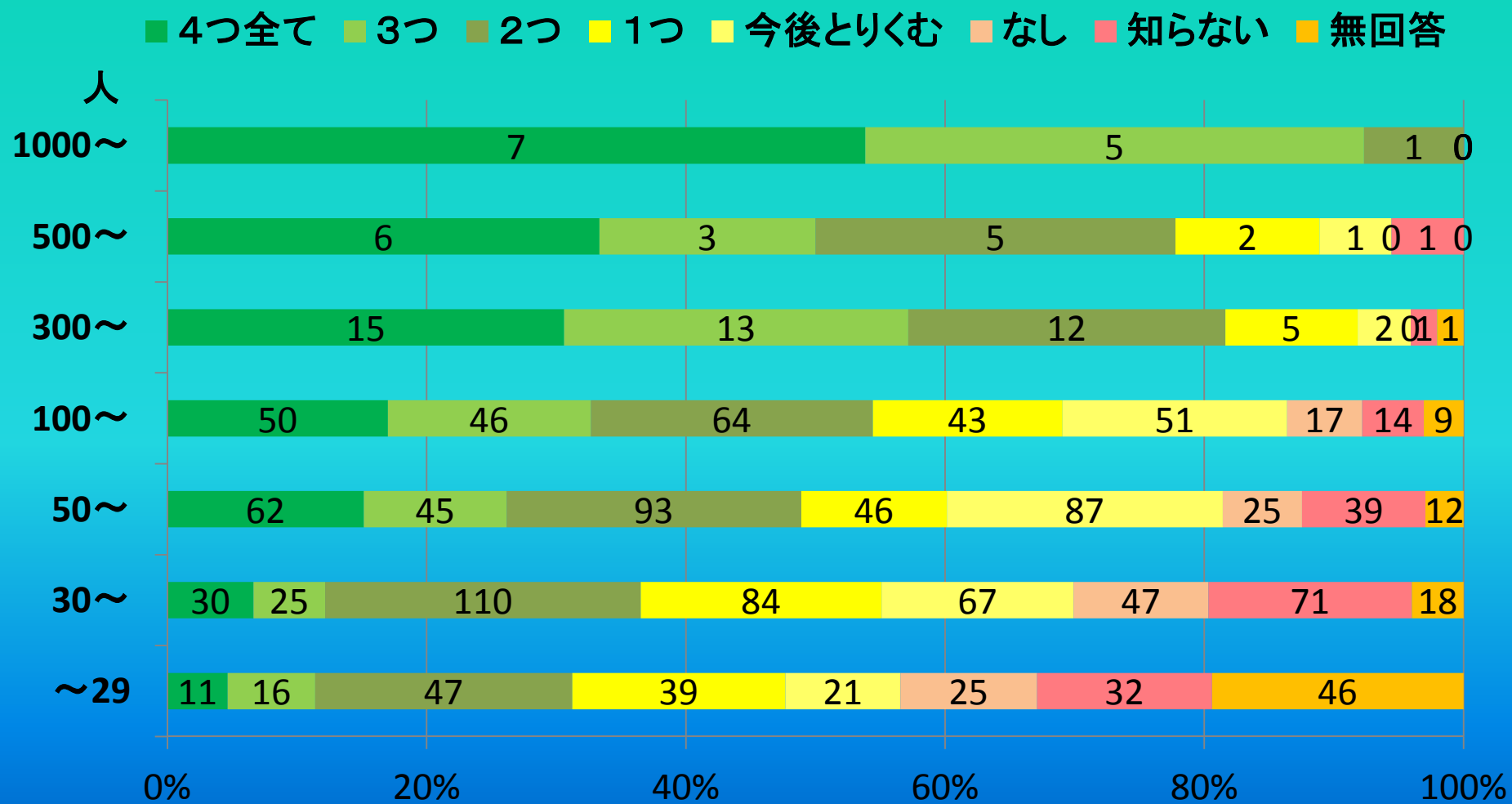
当センターサービスの利用状況推移



利用したいサービス内容



メンタルヘルス対策取組状況(事業場規模別)



まとめ

事業場の産業保健活動

一部の事業場では活発化し質的にも向上しているが、特に小規模事業場では必ずしも向上しているとはいえず産業保健活動でも格差が拡大している。

産業医活動

質的にも量的にも向上している面もあるが、一方では産業医の役割を果たしていない産業医も多く、二極分化が進んでいる。

センターの認知度

若干の向上はあるものの認知度は未だ不十分である。サービス内容では「図書・ビデオ等の貸出」が有用で多く、「講師派遣」も好評であるが、メンタル対策関係への関心が急増している。

この10年間の対策は一定の効果は挙げているものの限定的。今後は小規模事業場への効果的対策の樹立と産業医スキルのボトムアップが必須。